

令和6年7月11日(木)
大会議室

令和6年度第1回新宿区消防団運営委員会次第

1 開 会

2 委員長挨拶

3 定数の確認

4 委員の変更について

5 議 題

諮問事項

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

※ 諮問事項の課題と検討事項についてアンケート調査を実施し、結果を踏まえ、新宿区消防団運営委員会としての答申（案）の方向性を定めることを審議する。

6 その他
今後の予定

7 閉 会

(案)

新宿区消防団運営委員会答申書

新宿区消防団運営委員会

目 次

第 1	諮問事項	1 頁
第 2	諮問の趣旨	1 頁
第 3	課題	1 頁
第 4	検討事項及び方向性	1 頁～2 頁
第 5	検討事項における新宿区内消防団の現状	2 頁
第 6	提言	2 頁～6 頁
第 7	まとめ	6 頁

【資料】

- 別紙 1 新宿区内における消防団員の構成状況
- 別紙 2 新宿区内各消防団員に対するアンケートの実施結果
- 別紙 3 新宿区内各消防団事務局に対するアンケートの実施結果

- 添付資料 1 「特別区消防団火災対応訓練マニュアル」（抜粋）
- 添付資料 2 特別区消防団の災害活動能力強化に向けたロードマップ

第1 諮問事項

「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

第2 諮問の趣旨

特別区消防団は地域になくってはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところです。

さらに、本年（令和5年）は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待は更に高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核を担う消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要があります。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化しているところです。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問するものです。

第3 課題

諮問における現状の課題は次のとおりである。

- 1 地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である。
- 2 活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。

第4 検討事項及び方向性

- 1 入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、区の地域特性や消防団の現況（構成等）を踏まえ検討する。
 - (1) 団活動によりやりがいを持てる方策の検討
 - ア やりがいを感じる活動や各世代等でやりがいに違いがあるかなどを検討
 - イ 検討結果に基づき、やりがいを持てる方策内容を検討
 - (2) 資格取得講座の拡充等の検討
 - ア 既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等について検討
 - イ 多様な職業等からなる消防団の特性を活かした団員から団員への講話や研修の検討
 - (3) 多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養講座の検討
 - 各地域に根付いている企業や官公庁、消防団協力事業所等と連携した講習や講座、ワークショップの発掘
- 2 最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する。

- (1) 災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方の検討
- (2) 消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステムの検討
 現行整備されているタブレット端末の更新に合わせた新たなアプリやシステムの導入など
- (3) 各種資機材の更新に合わせた仕様変更等の検討
 環境に配慮した装備資機材の検討や仕様変更による利便性の向上、負担軽減
- 3 消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する。
 - (1) 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容の検討
 - (2) 経験豊富な団員（中核となる団員）による訓練指導体制等の検討
 - (3) 操法訓練と実動訓練の実施の目安などの検討
 - (4) 訓練効果の確認方策について検討
- 4 地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討する。
 - (1) 積極的な災害活動の定着化と区等と連携した普及方法の検討
 - (2) 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくりの検討

第5 検討事項における新宿区内消防団の現状

- 1 新宿区内における消防団員の構成状況(別紙1)
- 2 新宿区内各消防団員に対するアンケートの実施結果(別紙2)
- 3 新宿区内各消防団事務局に対するアンケートの実施結果(別紙3)

第6 提言

検討事項と方向性を基に、新宿区内各消防団員及び各消防団事務局に行ったアンケート結果(別紙2及び別紙3)及び新宿区の特性を踏まえて対応方針を提言する。

- 1 入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、区の地域特性や消防団の現況（構成等）を踏まえ検討する。

(1) 団活動によりやりがいを持てる方策の検討

ア やりがいを感じる活動や各世代等でやりがいに違いがあるかなどを検討

アンケート結果からは、現役の団員の世代間での「やりがい」には大きな違いはなく、全体の90%の団員から「大いにやりがいを感じる」もしくは「ある程度は感じている」という結果であった。

このことから、新宿区内の既に入団している団員からは、世代に関係なく、現在行っている消防団活動全般において、一定の「やりがい」を持っているものと推測する。

イ 検討結果に基づき、やりがいを持てる方策内容を検討

団員の多くは「地域貢献」や「災害活動」に対して「やりがい」を感じており、「地域のために」との思いから、消防団活動に従事していることが伺える。

このことから、消防団活動の目的は、より地域に寄り添った活動を行うことで、消防団員のモチベーションを維持できるものと推測する。

(2) 資格取得講座の拡充等の検討

ア 既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等について検討

消防団員へのアンケート結果(Q7)では、消防団員の多くが消防団活動において必要と思われる資格について「特になし」と回答しているものの、同アンケート(Q6)の「やりがいを持つこと」の問いに対しては、全体の約20%の消防団員が「資格を取得できる」ことに対してやりがいを感じている。

このことは、既に資格を取得していることから、今以上の資格取得を希望していないことも考えられる。

実際に事務局から資格取得などの募集をかけると「小型船舶操縦士免許」、「第三級陸上特殊無線技士」「可搬ポンプ等整備資格者特例講習」「英会話」「手話」の順に受講希望者が多くあり、受講や資格取得を希望しながら募集人員の制限により、希望がかなわないことがあるなど、各資格取得の講座の募集人員を拡大する必要があると推測される。

イ 多様な職業等からなる消防団の特性を活かした団員から団員への講話や研修の検討

消防団員へのアンケート結果(Q8)では、事業所や行政が実施している講習や講座で意見を調査したところ、特に「これ」といった講習などはなかったものの、同(Q13)のアンケート結果からは、過去の災害の経験談を聞きたいなどの意見もあり、団員同士の繋がりや教えを共有する「絆」を深める交流が必要なのではないかと推測する。

(3) 多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養講座の検討

(各地域に根付いている企業や官公庁、消防団協力事業所等と連携した講習や講座、ワークショップの発掘)

前項同様に、団員から希望する受講講座などはなかったものの、消防団員へのアンケート結果(Q8)では、少数ではあるが、外国語の講座受講希望があることに加え、同(Q11)では49人がタブレットに翻訳アプリを入れてほしいとの希望があることから、外国人とのコミュニケーションに不安を感じる消防団員がいることも確かである。

多種多様な外国人観光客などが多く存在する新宿区においては、外国人とのコミュニケーション職が円滑に図られる講座の受講が必要なのではないかと推測する。

2 最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する。

(1) 災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方の検討

電話連絡や緊急伝達システムに代わる方法として、消防団員へのアンケート結果(Q10)ではラインが社会に広く受け入れられていることから、ラインでの伝達を希望する消防団員が多くいた。しかしラインは常に着信音を最大にしていることが少なく、他の連絡も多く受信することから、災害の連絡に気が付きにくいいため、特別区消防団員専用の災害受信アプリの開発及び導入を求める意見も多数あった。

このことから、正確かつ迅速に災害が伝達される新しい仕組みが必要であり、新たなシステムやアプリの開発が必要なのではないかと推測する。

(2) 消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステムの検討

(現行整備されているタブレット端末の更新に合わせた新たなアプリやシステムの導入など)

消防団員へのアンケート結果(Q11)では、多い順に東京消防庁公式アプリ(消防水利の位置が地図でわかる機能もある)、震災時に東京消防庁職員が使用する震災時の支援システムで消火栓の使用可否などが予測できるシステムや翻訳アプリを希望していることがわかった。また、少数の意見ではあるが、出場の報告等を電子化により報告する方法の希望もあり、報告の簡素化、デジタル化への対応を求める声もあった。

こうした意見は、少数とはいえ消防団事務の効率化に繋がっていくと考えられるので提言する必要があると推測する。

(3) 各種資機材の更新に合わせた仕様変更等の検討

(環境に配慮した装備資機材の検討や仕様変更による利便性の向上、負担軽減)

本事項の検討は、前回の諮問に対する答申と同内容のものとなるため、今回のアンケートの項目には入れていないが、配置資器材の軽量コンパクト化、ホース延長の負担軽減、手引き台車への電動アシストの導入及び酷暑対策用活動服の導入が必要であると推測する。

また、今後新型防火衣の導入が予定されていることから、これについても、消防団員の意見を十分に反映させたものとするのが望まれる。

3 消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する。

(1) 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容の検討

事務局へのアンケート結果(Q7及びQ8)では、入団時の団員教育、操法や定期的な訓練の時、消防団員ハンドブックの活用及びeラーニングの活用があげられている。

また、目標については、特に設定していない事務局と上半期・下半期に署隊と連携訓練実施時に、実災害に則した活動ができることを目標に、各分団が教育、訓練を実施しているとした回答であった。

本アンケートは、東京消防庁消防団課が今年度示した「特別区消防団火災対応訓練マニュアル」(添付資料1)が施行される前に実施したものであることから、今後は団員の経験などに応じたレベル別の訓練の実施等、マニュアルに示された訓練の実施が推奨されることになるので、今後は施行されたマニュアルが、現行の団員に則したものであるかどうかの検討が必要になるものと推測される。

(2) 経験豊富な団員(中核となる団員)による訓練指導体制等の検討

事務局へのアンケート結果(Q9)では、操法大会までの事前訓練での個別指導や特別な制度ではないものの、経験の少ない団員への指導や助言を通例的に実施してい

るとのことであった。

本検討項目についても前項と同様に、今後導入されるレベル別の訓練実施時に、中核となる団員からの指導が必要不可欠なものであり、同時に指導がしやすいよう到達度をチェックして可視化し、指導者が変わっても統一的な指導ができる制度が必要なのではないかと推測する。

(3) 操法訓練と実動訓練の実施の目安などの検討

消防団員へのアンケート結果(Q12)では、現行のままでよいとする消防団員が半数以上であったが、「操法訓練はそもそも必要なし」や「操法訓練を減らして実災害に則した訓練を増やすべきだ」とする意見も全体の約20%に達するものであった。

操法大会までの事前訓練の回数は各団の分団により様々であるが、競技性を重視した訓練の実施よりも、実災害に則した訓練を充実させるべきだとの意見が多くあった。

一方で同アンケート(Q6)では、操法大会で良い成績が取れた時に「やりがいを感じる」方が50人も存在し、結果として訓練に関しては「現行のままでよい」とする意見が多くなったものと推測する。

両者の折衷案は、難しいものであるが、消防団員の過重な訓練の実施は、負担の増加となるものであることから、操法大会までの事前訓練と実災害への対応を重視した訓練については、当面各消防団又は各分団の判断によって、自らの特性に応じた訓練の実施方法を検討することが重要になると推測される。

(4) 訓練効果の確認方策について検討

新たに、効果確認の場を設けることは消防団員にとって負担の増加となることから、前(1)で検討した「特別区消防団火災対応訓練マニュアル」に示す内容が履行されているかどうかについて、今後消防団合同点検の実施時等で確認するよう変更した方が効率的であると推測する。

消防団合同点検の内容については、近年「実戦的な内容」とすることになっており、同マニュアルにある項目を実施することで、効率的に達成度が確認できるものと推定する。

4 地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討する。

(1) 積極的な災害活動の定着化と区等と連携した普及方法の検討

消防団員へのアンケート結果(Q14)では、意見の多い順に「防災訓練」「災害活動」「救命講習」「お祭りやイベントでの予防警戒」「地域や学校での防災思想の普及」となっている。

災害活動に関しては、前回の諮問に対する答申を踏まえて東京消防庁の消防団課が作成した「特別区消防団の災害活動能力強化に向けたロードマップ」(添付資料2)に基づく、計画的に意識と能力の醸成を推奨する方策が有効であると推測される。

一方、「防災訓練」等の活動は、これまで各消防団が地域と一体となって活動を行

ってきた意識の表れであり、地域の住民に活動をアピールする機会となっている。区や学校等と良好な関係の下に活動を実施していることが推測されることから、これらの活動は今後とも継続して実施していく必要があるものと推測する。

(2) 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくりの検討

地域のためにと活動している内容が、より多くの地域住民に「伝わる」広報の手段を展開していく必要があり、デジタル環境を活用して「より伝わる広報」を積極的に推進していく必要があると推測される。

一方で、デジタル環境下にはない方からも信頼を得る手段として、これまでどおりの、防災訓練や座談会、お祭りやイベント時での予防警戒等を継続して実施していくことが必要であると推測する。

第7 まとめ

首都直下地震発生時に想定される最大623件もの同時に発生する火災に備え、消防団は単独でも主体的に災害活動ができる力を向上させていく必要がある。

そのためにも、消防団員の充足率の向上や人材育成により、消防団の組織力を高め、地域住民と力を合わせて災害発生時の被害の軽減を図っていくことが重要となる。

新宿区消防団運営委員会としては、今後も日々変化する社会情勢に柔軟にかつ迅速に適応していくとともに、魅力ある消防団活動を展開することによって、住民の負託に応え続けていく方策が必要であると提言する。

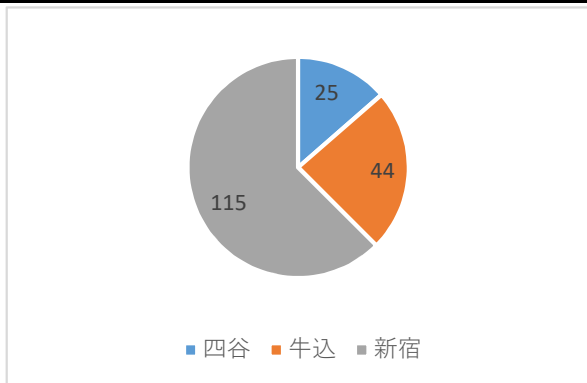
新宿区内における消防団員の構成状況

令和6年5月1日現在

	定員	現員	充足率	平均年齢
四谷消防団	100名	88名 (内、女性20名)	88.0%	50.0才
牛込消防団	150名	128名 (内、女性25名)	85.3%	51.0才
新宿消防団	300名	284名 (内、女性80名)	94.7%	50.6才
新宿区合計	550名	501名 (内、女性125名)	89.3%	50.5才
23区全体	16,000名	13,449名 (内、女性2,978名)	84.1%	50.8才

別紙2 (消防団員用)新宿区消防団運営委員会に伴うアンケート調査結果
 Q1 所属する消防団名をお答えください

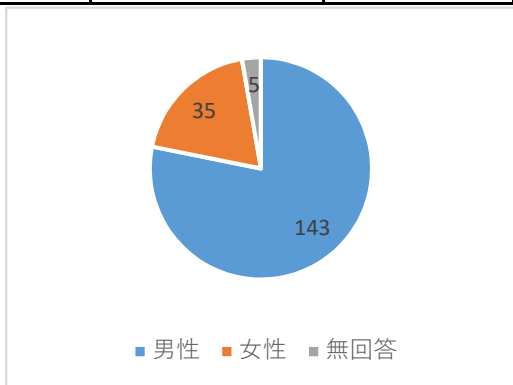
四谷	牛込	新宿
25	44	115



総計 184名

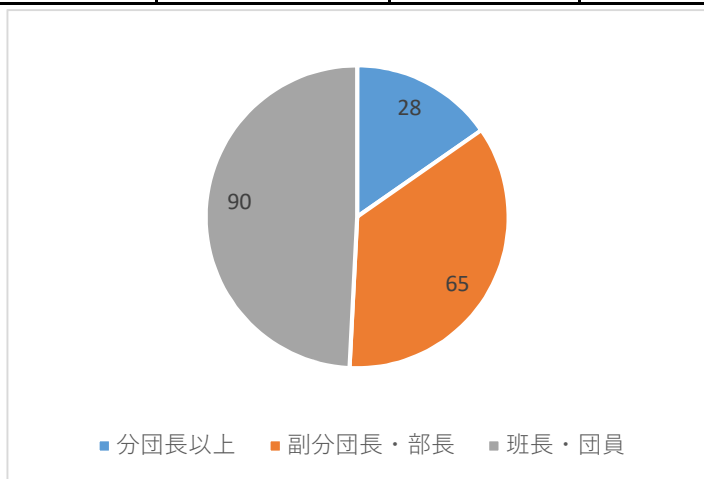
Q2 性別

男性	女性	無回答
143	35	5



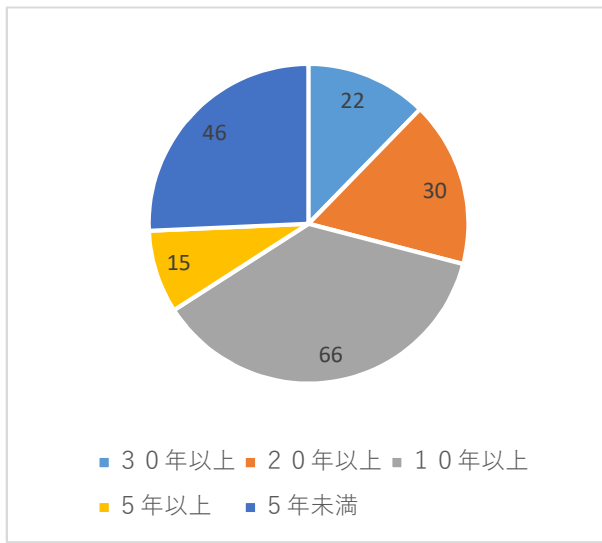
Q3 階級

分団長以上	副分団長・部長	班長・団員	無回答
28	65	90	1



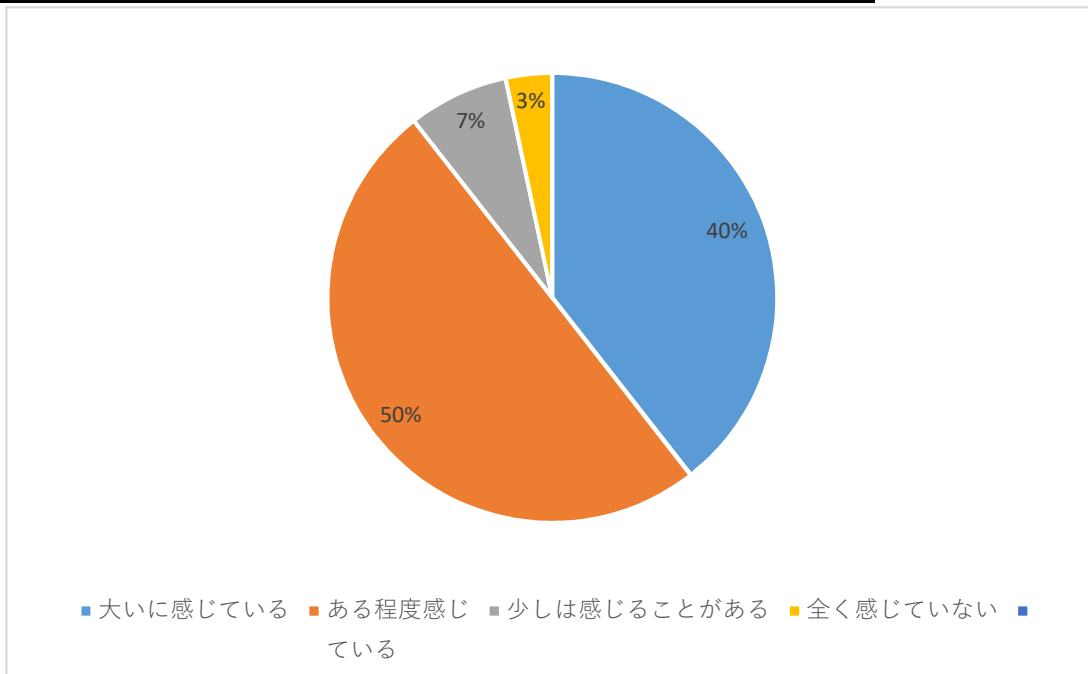
Q4 勤続年数

30年以上	20年以上	10年以上	5年以上	5年未満	無回答
22	30	66	15	46	5



Q5 あなたは消防団活動について「やりがい」をどれくらい感じていますか

大いに感じている	ある程度感じている	少しは感じる	全く感じていない
71	90	13	6

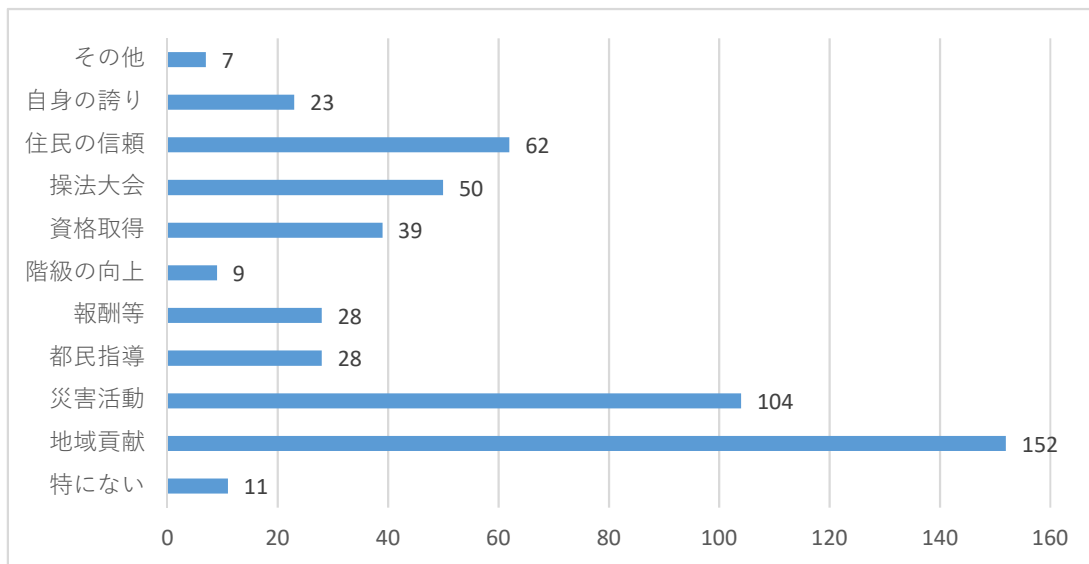


Q6 消防団活動で「やりがいがある」とおもうことをお聞かせください(複数回答可)

特になし	地域貢献	災害活動	都民指導	報酬等	階級の向上
11	152	104	28	28	9
資格取得	操法大会	住民の信頼	自身の誇り	その他	
39	50	62	23	7	

・その他の意見

地域への恩返し	2
実災害に向けた訓練実施時	1
防災意識を持つことができる	1
自分が持てる知識での貢献ができたとき	1
仲間との活動(人間関係)	1
団員同士の良好な関わり合い	1



Q7 消防団活動において希望する資格取得、講座受講があればお答えください(複数回答可)

特になし	危険物取扱者	防災士	応急救護訓練	小型船舶	ドローン
139	3	10	3	6	7
手話					
5					

その他の意見

消防設備士、被災者支援、電気主任、防災教育管理士、防火管理者

ポンプ運用、ペット災害危機管理士

各1

重機の運転、メンタルケア、救命講習、英会話、応急手当普及員

自動車運転普通免許、特殊無線技士、ユニック、フォークリフト

各2

Q8 管内の事業所や新宿が実施する講習や講座で参加してみたいものがあれば
教えてください

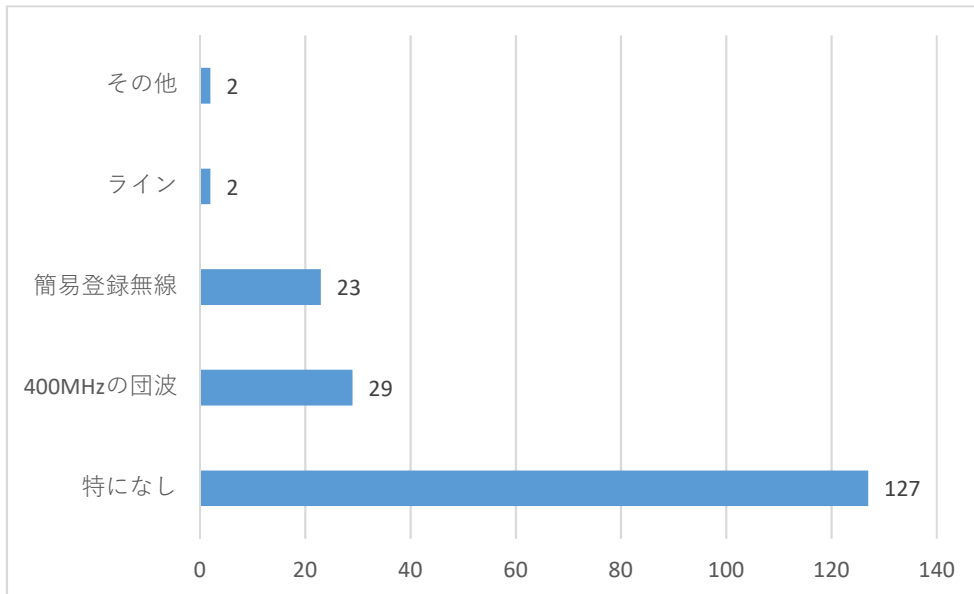
特になし
116

・その他の意見

区役所の災害対応訓練、都市災害に関する講習、BCP講座、手話、防犯対策、
防災士取得講座、ペット危機管理士取得講座、地域住民とのワークショップ、
パソコン(エクセル)、外国語、人材育成講座、ロープワーク、安全運転講習
各1

Q9 MCA無線に代わる無線機や統廃合についての希望をお答えください

特になし	400MHzの団波	簡易登録無線	ライン	その他
127	29	23	2	2
・その他の意見				
MCA無線波使いづらい				1
とにかく簡単に使える無線機				1



Q10 電話や緊急伝達システムに代わる新たな出場指令の伝達方法についてご意見をお聞かせください

変更の用なし	ラインの活用	専用アプリ	その他
50	90	61	5

・その他の意見

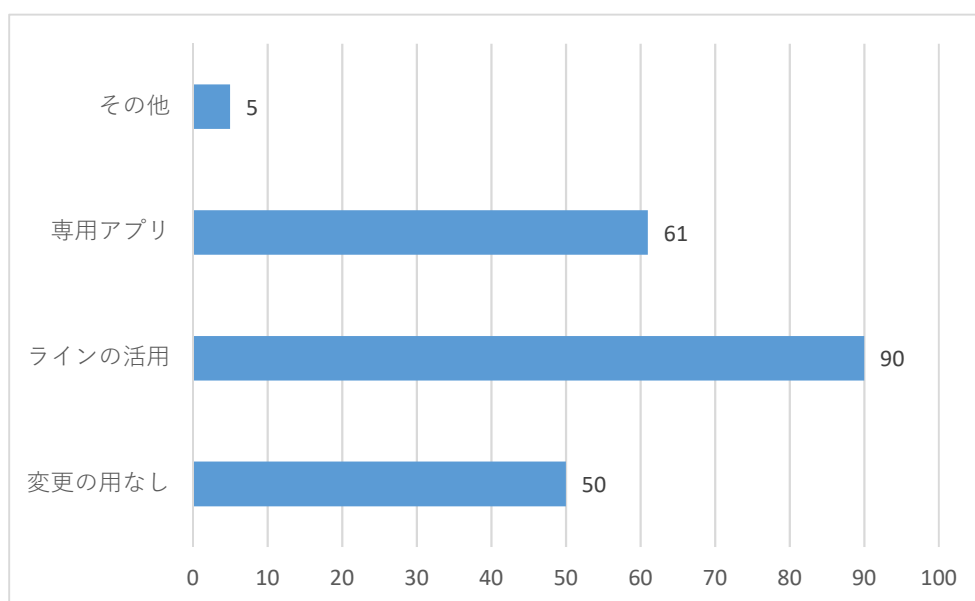
団員専用サーバーをつくる

ラインワークス

災害現場の写真を分団本部へ送付するシステム

チャットワーク

インスタ

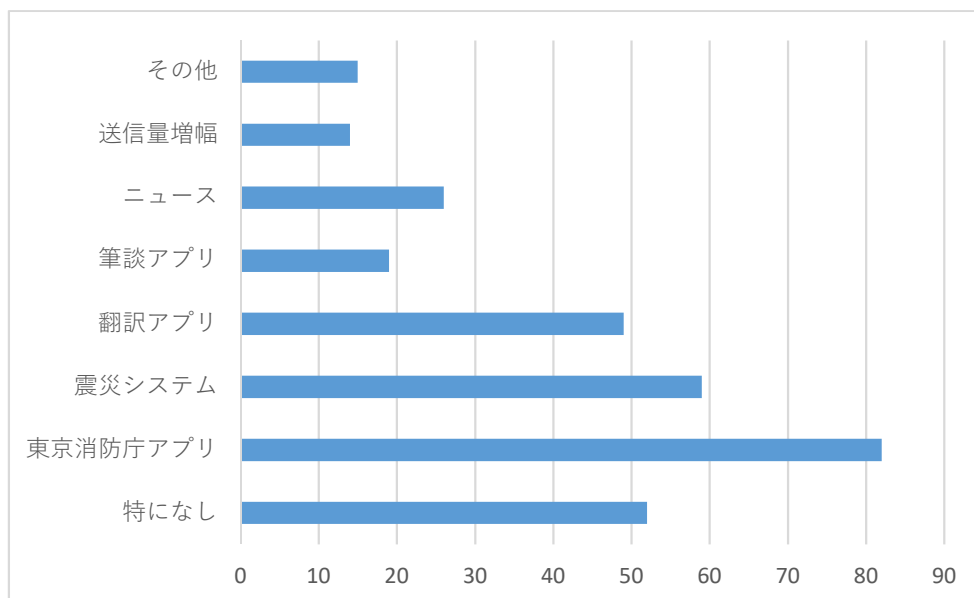


Q11 タブレットを活用することで効率化できることや新たに導入を希望するアプリやシステムはありますか（複数回答可）

特になし	東京消防庁アプリ	震災システム	翻訳アプリ	筆談アプリ	ニュース
52	82	59	49	19	26
送信量増幅	その他				
14	15				

・その他の意見

備品管理や出動記録の事務アプリ	2
電池の長持ち化	1
ラジオ	1
衛星通信	1
消防団員の安否確認システム	1
手話通訳アプリ	1
ペット同行可能な避難所検索アプリ	1
避難所での配給や行方不明の人が分かるアプリ	1
新たなアプリを開発するのではなく、普段使っているツールに入り込むことで目にする機会を増やしたほうが良い	1
タブレットよりスマホを活用すればよい	1
ライン	1
色々な団の活動をデジタルで報告できるシステム	1
団長通知	1
タブレットの増強配置	1

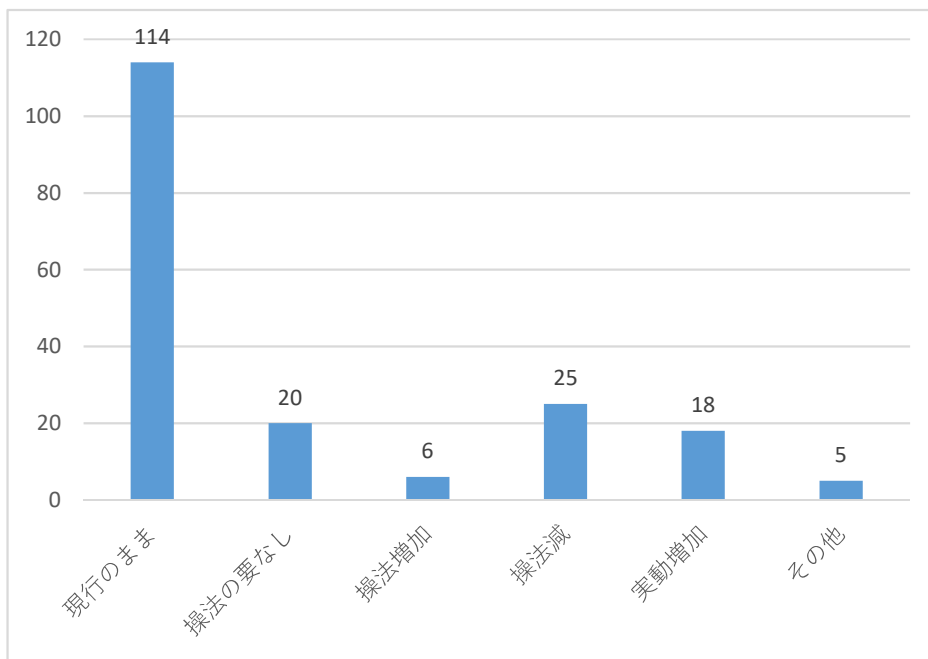


Q12 操法訓練と実動訓練の実施の目安についてお答えください

現行のまま	操法の要なし	操法増加	操法減	実動増加	その他
114	20	6	25	18	5

・その他の意見

日曜日の訓練をやめてほしい	1
競技ではない操法訓練	1
操法訓練の負担、必要性を改めて見直してほしい	1
操法訓練を積載車の訓練に変えてはどうか	1
固定の曜日の訓練はやめてほしい	1



Q12-2 操法訓練の目安は何回程度が希望ですか

(Q12の操法訓練増加及び、訓練減数希望者の訓練実施回数目安の希望)

操法訓練の重要性は理解しているが、大会のための訓練は家族にも自分にも時間が制限される、選手や支援になった場合訓練での充実感はあるが精神的なプレッシャーを感じる。操法の時期が来ると胃が痛くなる。	1
年に10回程度	3
年に5回程度	1
年に2回程度	1
全分団で訓練回数を統一する	1
操法大会を隔年にする	1
通年で月2回	1

Q12-3 実動訓練の目安は何の訓練を何回程度実施するのが希望ですか

(Q12の実動訓練増加及び、訓練減数希望者の目安の希望)

火災対応訓練を年3～4回	4
火災対応訓練を年2回	2
避難所運営訓練	1
ポンプ車からの放水訓練	1
救出救助訓練をできるだけ	1
火災対応訓練をできるだけ	1
署隊との連携訓練をできるだけ	5
首都直下地震に対する訓練	1
河川からの取水訓練を年1回	1
ロープワークや図上訓練をできるだけ	1
火災、震災の訓練場での訓練を年2～5回	1

Q13 消防団が災害従事する意識向上のために有効だと思われる方策がありましたら教えてください

経験値を上げる、基本訓練を充実させる	2
社会が変わっても、古き良き地域の繋がりを保つモデルケースとして消防団は必要だと思う	1
実災害を体験する	3
過去の災害について研修会を開催する	2
消防署の見学	1
定期的な実動訓練の実施	6
消防署員指導による防災点検	1
費用弁償の増額	1
実災害を想定した宿泊訓練	1
地域ごとの災害の発生状況の情報発信	1
団活動の奏効事例の教養	1
地域住民と触れ合う機会を増やす	5
会議や訓練は仕事との時間配分ができるようにしてほしい	1
被災者の心のケア	1
他の分団との交流の機会を増やす	2
火災時に積載車を積極的に活用する	1
大災害時の団員の経験談を聞きたい	3
色々な講義を聞く	2
署員と団員の情報の共有。訓練の実施などは同じ方向を向いていくことが何より大切だと思います。今は署員の方と団員の意識や考えの違いが大きくて困っています	2

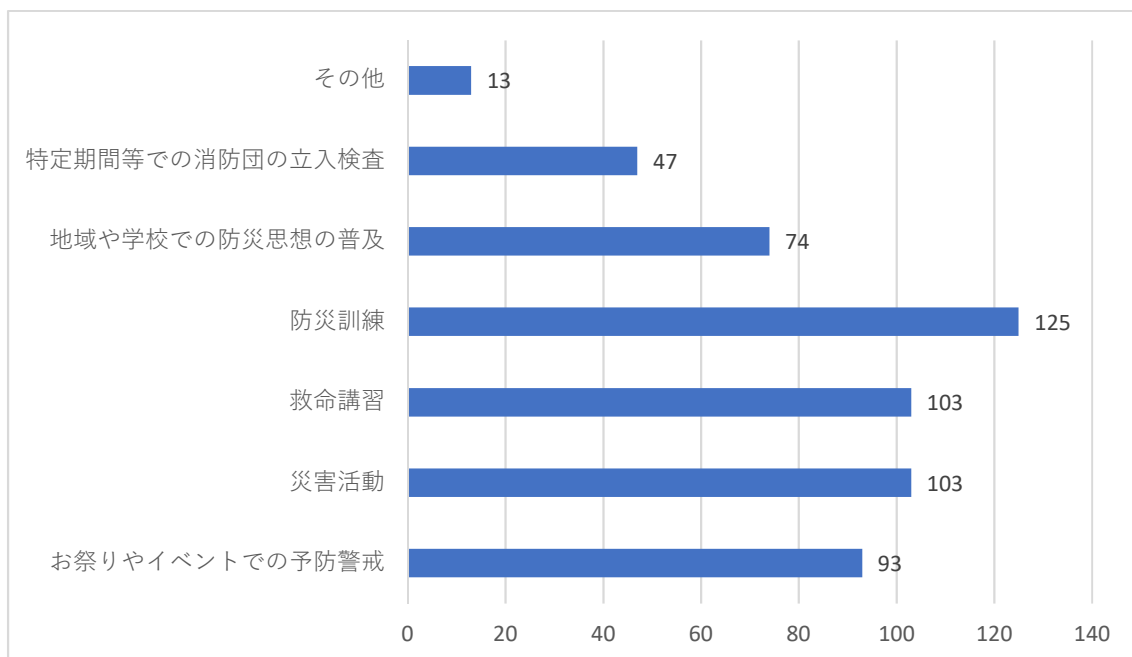
現場での緊迫した映像を見せる	1
資器材の安全な活用方法の習得	1
災害時に出場できる会社の理解が欲しい	1
会社の消防団活動休暇	1
団員用保育所	1
消防少年団員との合同活動	1
災害対策に対する学習の強化	1
テレビやインターネットでもっと消防団をとりあげてもらおう	1
遠距離送水訓練の実施	1
災害時にどういう事が起こり、どう対処するのかをイメージさせる訓練をする	1
消防士体験	1
災害経験者の話や映像を見る	1
他県における災害時の団員の活動状況をDVDなどで見てもらい、普段から我が町の災害時イメージトレーニングが必要	2
災害現場の視察	1
操法大会の訓練時に選手でない支援の団員でも実際に各番手の動きをやってみて基本操作をできる人員を増やす	1
過去の災害活動においてその対応実例を細部まで紹介する	1
新入団員への教育を早めに行う	1
災害は他人事と捉えている人が多い	1
ブラインド型訓練の励行	1
スマホを活用したきめの細かい情報共有	1
署員から直接訓練指導を受けたい	1
資格制度の充実や報酬を上げるなどの方策	1
大規模被災地での応援活動	1
安全な資器材の取扱要領の習得	1

Q14 地域からより信頼される消防団となるために必要だと思われる活動は何だと思います

お祭りやイベントでの予防警戒	93
災害活動	103
救命講習	103
防災訓練	125
地域や学校での防災思想の普及	74
特定期間等での消防団の立入検査	47
その他	13

・その他の意見

色々なイベントに消防団が参加する	2
経験が少なく現場で不安である	1
団員の知識を向上させること	1
ペット愛好家に向けての防災イベント	1
視覚、聴覚、身体障害者とのお祭りやイベントでの予防警戒	1
老人ホームや福祉施設での防災訓練	1
消防少年団とのイベント	1
東京マラソンやスポーツイベントでの予防警戒	1
地域とのコミュニケーション	1
消防団の体験入団	1
団員が集まりません。今後が心配です。	1
人気タレントやアニメキャラクターとのコラボイベント	1



Q15 その他要望や意見があればお答えください

大小問わず希望者が参加できる機会を増やしてほしい	1
平時の活動に力を入れることによって住民の防災意識を高める	1
若い人が地域に少ない、地域で色々な人と関わって消防団に対する理解を求めていきたい	1
eラーニングはアプリにしてほしい	1
被服がなかなか届かない	1
団員証のつくりが雑	1
火災時の出場に関して、延焼中で団に出場指令となりますが、遅くいくと近所の方に何か言われることがあります。下の人は困ることもありますので、早く知りたいと思っています。。署員の人にも団のことをもっとよくわかってもらいたい	1
ジェイコム等ケーブルテレビとのコラボ	1
サッカーチームやスポーツイベントとのコラボ	1
ホームページでの消防団への興味関心を高める効果的なアピール(例、団員の入団きっかけ談、こんな資格が取れる、楽しい仲間との防災活動、有名人との対談等)をドラマ方式や、若者に関心が高いTiktokなどでの展開	1
正服のデザインをもう少しよくしてほしい	1
町会と連絡を密にとり、街から団員を加入させて活動をする	1
若い人に操法大会を見てほしい	1
昔に比べると平日の救命講習が多くなり、仕事と団活動の両立が難しくなっている	1
消防職員と団員の違いが分っていないと思うので何が違うのかを説明する。署員と別に団員が必要な理由をもっと公にしないと分からないと思う。入る意味が分からない。	1
消防団は絶対的なマンパワーが必要で、現場団員の確保に大変苦労しています。特に震災時の活動に不安を感じており、居住地団員は昼間不在、勤務地団員は夜間不在となり、MAXでも50%ほどであり、実情としては数名なのではないかと思う。団員の確保のために福利厚生や報酬の増額を是非検討してほしい。	1
eラーニングをもっと充実させてほしい	1
中学校でD級ポンプの訓練をやりたいとのこと	1
災害対応は他人事と思っている人が多い	1
アンケートは電子化してほしい	2
行事・訓練の予定をもっと早く教えてほしい	1
東京消防庁のeラーニングは良いシステムだと思う	1
書類やFAXでの連絡をやめるべき、メールでの連絡や出場報告ができるように	1

時代の変化に柔軟に対応していくことが必要	1
目標を立てる	1
定期的な実動訓練を実施したい	1
とにかく団員を増やすための勧誘を強力に行わないと消防団活動が存続できなくなる	1
外国人を入団させるような制度改革には反対します	1
分団本部へのWi-Fiルーターの整備	1

別紙 3

(消防団事務局用)新宿区消防団運営委員会に伴うアンケート調査結果

Q1 所属する消防団名をお答えください

四谷	牛込	新宿
1	1	1

Q2 消防団活動において希望する資格取得、講座受講があればお答えください

応急手当普及員	危険物取扱者	アマチュア無線	特になし
1	1	1	1

Q3 管内の事業所や新宿が実施する講習や講座で参加してみたいものがあれば教えてください

特になし	指導者、管理者、経営者を要請する講座
2	1

Q4 MCA無線に代わる無線機や統廃合についての希望をお答えください

特になし	400MHzの団波	簡易登録無線	ライン	その他
	3			

Q5 電話や緊急伝達システムに代わる新たな出場指令の伝達方法についてご意見をお聞かせください

変更の用なし	ラインの活用	専用アプリ	チャットワーク	インスタ	その他
	2	1			

Q6 タブレットを活用することで効率化できることや新たに導入を希望するアプリやシステムはありますか

プロジェクター モニターへの接続	東京消防庁アプリ	震災システム	翻訳アプリ	筆談アプリ	ニュース
1	2	1	3	1	1

Q7 新入団員や経験の浅い団員に対する人材教育方法についてお答えください

入団時や定期的な教養または訓練を実施している	3
東京消防団eラーニングの活用	3
消防団員ハンドブックの活用	3
操法訓練や各種訓練の際に実施している	2

Q8 Q7の具体的な目標や到達状況の確認方法があれば教えてください

特にない	2
上半期、下半期に一回ずつ署隊と連携訓練を実施し、そこで実災害に則した活動ができるかを確認している。	1

Q9 経験豊富な団員や訓練指導者の訓練指導体制についてお答えください

操法大会までの事前訓練での個別指導	2
各分団での教養	1
特別な制度はなく、団員へのアドバイスや助言を通例的に実施	2

Q10 消防団が災害従事する意識向上のために有効だと思われる方策がありましたら教えてください

消防署での宿泊訓練	1
全国の消防団員の実災害での活動事例紹介(eラーニング活用)	1
実災害に則した訓練の実施	1
災害現場での積極的な活動を促進し、署隊と連携を図る	1
消防団の活動審査会	1

Q11 地域からより信頼される消防団となるために必要だと思われる活動は何だと思いますか

お祭りやイベントでの予防警戒	3
災害活動	3
救命講習	2
防災訓練	3
地域や学校での防災思想の普及	3
特定期間等での消防団の立入検査	1

Q15 その他要望や意見があればお答えください

在庫欠品による被服の配布遅延の解消	1
活動服に名札を付けてほしい	2

消防団員の活動レベルに応じたより効果的な訓練方策

「特別区消防団火災対応訓練マニュアル」の策定

マニュアルの目的等

首都直下地震等に想定される同時多発する火災に備え、各消防団員の経験等に応じながら訓練が実施できるよう、**各種訓練をレベル別に示し、災害活動力のさらなる向上を目指して作成**

災害活動タイムラインによる災害活動への理解促進

火災対応の推移を理解することで、効果的な訓練を推進



団員の経験等に応じたレベル別の各種訓練の推進

各種基本訓練、総合訓練等をレベル別に提示

第1部 基本訓練
第3 放水訓練

火災の状況等により、ノズルの操作を行い、ストレート注水や噴霧注水を行うとともに、注水方法についても直撃注水、反射注水、拡散注水など、状況判断しながら放水することが大切です。

レベル1	レベル2	レベル3
基本的な放水要領の習得	各放水種別による放水要領の習得	総合
① 管そうとホースを確実に結合・離脱できる。	① 優先交替ができる。	① 開口部を通じて、屋内に反射注水ができる。

東京消防団e-ラーニングシステムとリンクした効果的な訓練の推進

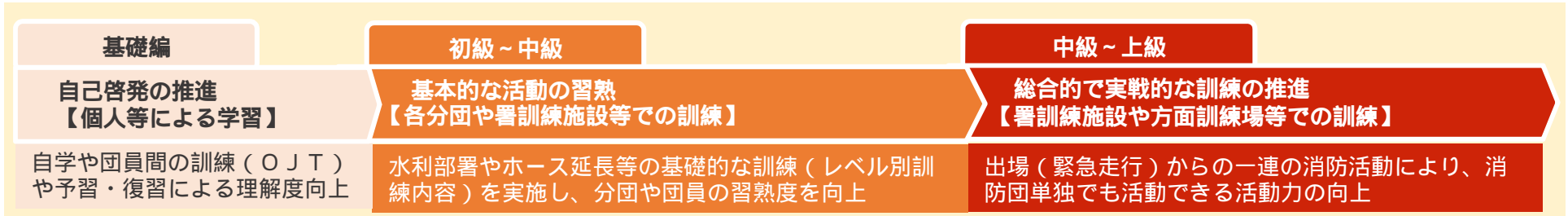
動画や資料を閲覧できる構成とし、効果的な訓練を推進

訓練時の安全管理や指導者の心得等を掲載

訓練時の安全管理のポイント等を掲載し安全意識を醸成

教育訓練の体系イメージ

基礎は、階級や経験を問わず、個人の学習や団員間でのOJTとし、その上で、本マニュアル等を活用して、団員の知識・経験等に応じたレベル別の実践的な訓練を推進する。



災害活動タイムラインによる理解促進

e-ラン等による学習

訓練モデルによるレベル別の実践的な訓練の推進

方面訓練場活用マニュアル（仮称）の活用

特別区消防団の災害活動力強化に向けたロードマップ



検討項目の補足

2 最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する

(1) 災害への出場命令や、団員間の情報伝達の在り方の検討

ア MCA無線に代わる無線機への更新や配置人員の見直し、

無線関係機器の統合による利便性の向上の検討

消防団員へのアンケートの結果(Q9)で、MCA 無線(全国に点在する中継局を介して通信を行うマルチチャンネルアクセス無線の略称)に代わる無線機や統廃合の希望についての意見を聞いてみたが、「特になし」の意見がもっと多かった。

MCA 無線機での交信時にはプレストークボタンを押した時に、機械が自動的にチャンネルを探す方式のため、つながるまでに僅かなタイムラグが生じる。その間プレストークボタンを離してしまうとチャンネルがリセットしてしまうので、押し続けて「ピッピ」と音が鳴ってから交信する必要があり、人によってはこれが使いづらいと感じる人がいる。

アンケートの結果からは、「特になし」の次には、現行の 400MHz 帯のアナログ無線機に「団専用チャンネル」設定や、新しい技術により開発されたデジタル高出力無線機(無線局の登録のみで特殊無線技士などの資格を必要としないもの)の導入を求める意見があり、統廃合や新しい機種を導入を検討する必要があると推定する。

【令和6年度第1回新宿区消防団運営委員会】

『議事録』

令和6年7月11日 開催

【令和6年度第1回新宿区消防団運営委員会】

『議事録』

日時：令和6年7月11日（木） 午後3時00分から3時54分まで

1. 開 会

○事務局

定刻となりましたので、ただ今から令和6年度第1回新宿区消防団運営委員会を開会いたします。委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただき誠にありがとうございます。司会進行を務めさせていただきます新宿区危機管理担当部の防火防災対策担当副参事伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

まず初めに、新宿区消防団運営委員会委員長であります吉住区長から挨拶をいただきたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

2. 委員長あいさつ

○吉住委員長

新宿区消防団運営委員会委員長の吉住でございます。お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。また、日頃から皆様には防火防災行政をはじめ区政全般に渡りましてご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

さて、今回の消防団運営委員会については、令和5年8月16日付東京都知事から、「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」との諮問がございました。前回の委員会の後、諮問に関するアンケートが実施され、その結果がまとまっております。今後、消防団の皆様がよりやりがいを感じながら災害に対応する力を高め、かつ区民の期待に応えながら活動するための方策を答申として取りまとめることができますよう、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

なお、本委員会は公開とし、審議内容もホームページ上で公開させていただきますので、あらかじめご了承願います。

それでは、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。委員の皆様には、限られた時間でございますが、活発なご意見をお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3. 定足数の確認

○事務局

委員長、ありがとうございます。次に、委員定数の確認でございます。本日、3名の委員がご都合により欠席しておりますが、18名中15名の委員にご出席いただいておりますので、定足数に達しており、本委員会は成立しておりますことを皆様にご報告いたします。

これより議事進行を委員長にお願いいたします。

4. 委員の変更について

○委員長

それでは、審議に入る前に、委員の変更がございましたので、事務局から報告を願います。

○事務局

はい。委員の変更についてご報告させていただきます。別の資料の新宿区消防団運営委員会名簿をご覧ください。特別区の消防団の設置等に関する条例第5条第1項第3号の委員として、東京消防庁牛込消防署長の田中智子委員、東京消防庁新宿消防署長の加藤英治委員、第4号の委員として、四谷消防団長佐藤利彦委員、牛込消防団長中村光太郎委員、新宿消防団長中村成彦委員、以上5名の方が令和6年4月1日に就任されております。どうぞよろしくお願いいたします。

5. 議 題

○委員長

はい。それでは、第5議題諮問事項「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」事務局から説明をお願いします。

○永田警防課長

皆さん、こんにちは。牛込消防署の警防課長永田でございます。よろしく願い申し上げます。着座にて説明させていただきます。

それでは、説明に入る前に資料の確認をさせていただきたいと思っております。まず初めに、新宿区消防団運営委員会等答申書案でございます。ページをめくっていただきまして、目次、その後、1ページ目から6ページ目まででございます。はい。続きまして、

別紙の 1、2、3 が一緒になりました資料となっております、1 ページ目が別紙 1、2 ページ目から 13 ページ目までが別紙 2、14 ページ目から 16 ページ目までが別紙 3 ということになっております。次に、添付資料 1、2 ということで、カラーになりますけれども、裏表の添付資料 1、2 となっております。最後になります。検討項目の補足ということで、「MCA 無線に代わる無線機の更新や配置人員の見直し、無線関係機器の統合による利便性の向上の検討」というような資料が 1 枚あります。落丁、乱丁ありましたらお取り替えいたしますので、事務局までお知らせください。はい、よろしいでしょうか。

それでは、早速説明に入らせていただきます。答申書案を開き、目次の方をご覧ください。第 1 の諮問事項から第 7 のまとめまでございますが、第 1 の諮問事項から第 4 の検討事項及び方向性までにつきましては、すでに前回の会議でご説明いたしまして、その結果、全ての項目について検討するということとなりまして、アンケートの実施やこの答申書案の作成と進んでまいりましたので、本日は、第 5、「検討事項における新宿区内消防団の現状」から説明を始めたいと思います。答申書案の 3 つ目をめくっていただきまして、2 ページ目ですね、第 5、「検討事項における新宿区内消防団の現状」をご覧ください。新宿区内における消防団の構成状況につきましては、こちらの別紙資料の 1 ページ目をご参照ください。令和 6 年 5 月 1 日現在の新宿区内の各消防団、新宿区の合計 23 区の全体の消防団の定数、員数、充足率、平均年齢について記載されてございます。

答申書案 2 ページにお戻りいただきまして、続きまして、2 番目の「新宿区内各消防団員に対するアンケートの実施結果」、別紙 2 及び 3 の「新宿区内各消防団事務局に対するアンケートの実施結果」ですが、こちらにつきましては、第 6 提言を説明する中で都度出てまいりますので、ここでの説明は割愛させていただきます。

それでは、第 6 提言の説明に入らせていただきます。大きく分けまして 4 つの検討事項と、そこから枝分かれしたいいくつかの方向性に沿ってです。新宿区内各消防団員及び各消防団事務局に行ったアンケート結果及び新宿区の特性を踏まえて提言案を作成させていただきました。まず初めに、検討事項の 1 番目「入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策」について、「区の地域特性や消防団の現況（構成）等を踏まえて検討する」でございます。この検討事項は、(1) から (3) まで検討の方向性がございます。(1) は「団活動によりやりがいを持てる方策の検討」です。やりがいを感じる活動や各世代等でやりがいに違いがあるかなどを検討し、その検討結果に基づき、やりがいを持てる方策内容を検討いたしました。資料の 3 ページ目ですね、Q4「勤続年数」と、Q5「あなたは消防団活動についてやりがいをどれくらい感じていますか」を見ながら説明をしたいと思います。Q4「勤続年数」を見てみますと、アンケートに回答してくれた方々の勤務年数には大きな偏りがないことがわかります。また、Q5「あなたは消防の活動についてやりがいをどれくらい感じていますか」を見

てみますと、全体の 90%の団員から、「大いにやりがいを感じる」、もしくは「ある程度は感じている」という回答をいただいております。このことから、新宿区内のもうすでに入団している団員は、世代に関係なく、現在行っている消防団活動全般において一定のやりがいを持っているものと推測いたしました。そして、この検討結果を基に、資料もう 1 枚めくっていただきまして、Q6 ですけれども、「消防団活動でやりがいを持てることをお聞かせください」という質問に、団員の多くは地域貢献や災害活動に対してやりがいを感じており、地域のためにという思いから消防団活動に従事していることが伺えるということから、地域に寄り添った消防団活動をより多く行うことで、消防団員がよりやりがいを持って活動ができるものと推測いたしました。

続きまして、答申案の方に戻っていただきまして、(2)「資格取得講座の拡充等の検討」です。答申書、1 枚めくっていただきまして、3 ページ目となります。既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格について検討し、多様な職業等からなる消防団の特性を生かした団員から団員への講話や研修について検討いたしました。合わせて資料の 4 ページ目をご覧ください。まずは、既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等についてですが、Q7「消防団活動において希望する資格取得講座事項があればお答えください」という質問に、多くの方が、「特になし」と回答しているのですが、一つ前の、Q6「消防団活動でやりがいを持てることを思うこと」をお聞かせくださいという質問には、全体の 20%の団員の方が「資格を取得できること」に対してやりがいを感じていると回答しております。このことは、すでに資格を取得していることから、今以上の資格取得を希望していないということも考えられます。実際に事務局の方から資格取得などの募集をかけると、小型船舶操縦士免許等、答申案に記載されている資格の順に希望者が多くありまして、資格取得を希望しながら募集人数の制限により希望がかなわないというようなこともあるため、各資格取得の講座の募集人数を拡大する必要があると推測いたしました。

次に、「多様な職業等からなる消防団の特性を生かした団員から団員への講話や研修の検討」についてでございます。こちらは資料の 5 ページの、Q8 になりますけれども、「区内の事業所や新宿区が実施する講習や講座で参加してみたいものがあれば教えてください」というような質問ですけれども、こちらも特にこれといった希望等はございませんでした。資料の 9 ページ目を開いていただき、Q13 の「消防団が災害従事する意識向上のために有効だと思われる方策がありましたら教えてください」という質問には、上から 2 番目、「社会が変わっても古き良き地域のつながりを保つモデルケースとして消防団は必要だと思う」1 人、上から 4 番目、「過去の災害について研修会を開催する」2 人、上から 11 番目、「団活動の奏効事例の教養」1 人、下から 5 番目、「他の分団との交流の機会を増やす」2 人、下から 3 番目、「災害時の団員の経験談を聞きたい」3 人などの意見もありました。こうしたことから、団員同士の繋がりや教を共有する、絆というものを深める交流が必要なのではないかと推測いたしま

した。

答申案の方に戻りまして、(3)でございます。続きまして、(3)、「多様な主体と共同による地域密着型の各種講習や教養講座の検討」でございます。戻っていただいて5ページ目になります、Q8「区内の事業所などが実施する講座に参加してみたいものがあれば教えてください」という質問に少数ではございますが、外国語の講座受講希望があったことに加え、7ページ目になりますけれども、Q11「タブレットを活用することで効率化できることや、新たに導入を希望するアプリやシステムはありますか」という質問に、49人がタブレットに「翻訳アプリを入れてほしい」というような希望があることから、外国人とのコミュニケーションに不安を感じる消防団員がいることも確かであります。多種多様な外国人観光客などが多く存在する新宿区においては、外国人とのコミュニケーションが円滑に図られる講座の受講が必要なのではないかと推測いたしました。

続きまして、検討事項の2番目になります。「最新技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討する」でございます。この検討事項は、(1)から(3)までと先ほど見ていただいた追加の検討事項を合わせて4つの検討の方向性がございます。1番目です。災害への出場命令や団員間の情報伝達のあり方の検討でございます。資料1枚めくってもらって、6ページ目のQ10「電話や緊急伝達システムに代わる新たな出場指令の伝達方法についてご意見をお聞かせください」という質問をいたしましたところ、電話連絡や緊急伝達システムに代わる方法として、「LINE」での伝達を希望する消防団員が多くいました。しかし、LINEは常に着信音を最大にしているということも少なかったり、他の連絡も多く受信したりすることから災害の連絡に気がつきにくいということもあるため、特別区消防団員の専用の災害受信アプリの開発及び導入を求める意見も多数ございました。このことから、正確かつ迅速に災害が伝達される新しい仕組みが必要であり、新たなシステムやアプリの開発が必要なのではないかと推測いたしました。

次に、1枚別の資料があるのですが、検討項目の補足について見ていただきたいと思えます。次に、「MCA無線に代わる無線機の更新や配置人員の見直し、無線関係機器の統合による、利便性の向上の検討」です。こちら、合わせて資料の5ページ目をご覧くださいとありがたいです。Q9になります。「MCA無線に代わる無線機や統廃合の希望をお答えください」という質問をしたところ、「特になし」という意見が最も多く寄せられました。これは、このMCA無線というものが、団長、副団長及び各分団長、そして消火班にしか配置されていないため、そもそもこのMCA無線というものを知らない団員もいるということも考えられます。また、使いにくいという意見もございまして、その理由として、実物を用いて説明できると良いのですが、交信時にこのプレストークボタンを押し、機械が自動的にチャンネルを探す方式が使われており、繋がるまで少しタイムラグが生じます。押し続けて1秒か1.5秒ほど待つ必要

がありますが、これを使いにくいと感じる人もいます。その間にボタンを離してしまうとチャンネルがリセットされ、再度設定しなおさなければなりません。アンケート結果の「特になし」の次に多い意見として、「現行の 400MHz 帯のアナログ無線機や消防署の無線機を使用できるようにすること」、「消防団専用のチャンネルを設定すること」、さらには「デジタル簡易登録無線機の導入」を求める意見があり、新しい機種を導入を検討する必要があると推測いたしました。

次に、(2)「消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステムの検討」となります。こちら、答申書案の 4 ページ目となります。合わせて資料の 7 ページ目、Q11 をご覧ください。Q11 の「タブレットを活用することで効率化できることや、新たに導入を希望するアプリやシステムはありますか」という質問をしたところ、多い順に、「東京消防庁公式アプリ」、「震災システム」、「翻訳アプリ」を希望するという意見が多く寄せられました。また、少数の意見ではありますが、その他の意見の中に「備品管理や出動記録の事務アプリ」2 人、「様々な団の活動をデジタルで報告できるシステム」1 人という意見もあり、報告の簡素化、デジタル化の対応を求める声もありました。こうした意見は少数とはいえ、消防団事務の効率化につながるものであり、提言をする必要があると推測いたしました。

続きまして、(3)「各種資機材の更新に合わせた仕様変更等の検討」ですが、本事項の検討は前回の諮問に対する答申と対応の内容のものとなるため、今回のアンケートには入れておりません。今回の答申においても引き続き、配置資機材の軽量・コンパクト化、ホース延長の負担軽減、手引き台車への電動アシストの導入及び酷暑対策用活動服の導入が必要であると推測いたします。さらに、今後、新型の防火服が導入される予定ですので、それに際しても消防団員の意見を十分に反映させる必要があると考えております。

次に、検討事項 3 番目となります。「消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討する」この検討事項には、(1) から (4) までの 4 つの検討の方向性がございます。まず、(1)「経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容の検討」です。こちらは資料の 15 ページ目をご覧ください。Q7「新入団員や経験が浅い団員に対する人材教育方法についてお答えください」という事務局へのアンケート結果ですが、「入団時の団員教育や操法」、「定期的な訓練」、「消防団員のハンドブックの活用」及び「e ラーニングの活用」が挙げられております。また、Q8 には、「新入団員や経験が浅い団員に対する具体的な目標や到達状況の確認方法があれば教えてください」との質問があり、事務局の多くは特に設定をしていないとしている一方、上半期、下半期に実施する訓練で実災害に即した活動ができることを目標にしているという意見もありました。

続きまして、添付資料の 1 をご覧ください。こちらは東京消防庁消防団課が今年度示した「特別区消防団火災対応訓練マニュアル」でございます。このアンケートは、

このマニュアルが施行される前に実施されたものとなります。このマニュアルが導入されたことにより、今年度からは団員の経験などに応じたレベル別の訓練の実施等が推奨され、その適応性について検討が必要とされます。

続きまして、(2)「経験豊富な隊員による訓練指導体制等の検討」です。資料の 15 ページ目をご覧ください。Q9「経験豊富な団員や訓練指導者の訓練指導体制についてお答えください」という事務局へのアンケート結果です。操法大会までの事前訓練での個別指導や、特別な指導はありませんが、団員へのアドバイスや助言を随時実施しているとのことでした。本検討事項についても前項と同様、レベル別の訓練が導入される際には、中核となる団員や指導団員からの指導が必要不可欠です。そのため、到達度をチェックし、可視化することで、指導者が代わっても統一的な指導ができる制度が必要と考えられます。

続きまして、(3)「操法訓練と実動訓練の実施の目安などの検討」についてです。資料の 8 ページ目をご覧ください。Q12「操法訓練と実動訓練の実施の目安についてお答えください」という消防団員へのアンケート結果を見ると、「現行のままで良い」とする消防団員が半数以上でしたが、「操法訓練はそもそも必要なし」や「操法訓練を減らして実災害に即した訓練を増やすべきだ」とする意見も 20%ありました。操法訓練までの事前訓練の回数は各団、各分団によって異なりますが、競技性を重視した訓練よりも、実災害に即した訓練を充実させるべきだという意見が多くありました。

資料の 4 ページ目も合わせてご覧いただきたいのですが、Q6「消防団活動でやりがいを持ってと思うことで最もやりがいを感じたことをお聞かせください」には、「操法大会で良い成績が取れた時にやりがいを感じる」方が 50 人存在しています。このことから、訓練に関しては現行のままで良いとする意見が多くなったものと推測されます。資料の 8 ページ目、9 ページ目を合わせてご覧ください。Q12-2 及び Q12-3 に対しては、操法訓練と実動訓練の回数の目安について様々な意見が混在し、一定の傾向を推測することができませんでした。しかし、消防団員の過重な訓練の実施は負担の増加につながるため、操法大会までの事前訓練と実災害への対応を重視した訓練については、Q12、Q12-2 及び Q12-3 のアンケート結果を参考にし、各消防団または各分団の判断によって訓練の実施方法を検討することが重要であると推測されます。

続きまして、(4)「訓練効果の確認方策についての検討」でございます。資料の 5 ページ目そのまま続けます。前項において団員の負担軽減の話もありましたが、訓練効果の確認の場を新たに設けることは団員にとって負担増加となります。どのようにすれば団員の負担を抑えつつ、特別区消防団火災対応訓練マニュアルに示されたレベルに到達しているかを確認できるかを検討しました。新たな行事を増やすのではなく、既存の行事の内容を変更することで負担軽減を図りながら新たな試みを実施することが求められます。消防団合同点検なども近年は実践的な内容となっており、今後はこの点検の実施時にマニュアルにある項目を取り入れることで、効率的に訓練達成度を

確認できると推測されます。

最後の検討事項4番目になります。「地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらおう方策について検討する」でございます。この検討事項は、(1)(2)合わせて2つの検討の方向性がございます。

最初に、(1)「積極的な災害活動の定着化と区と連携した普及方法の検討」です。資料の11ページ目をご覧ください。Q14「地域からより信頼される消防団となるために必要だと思われる活動は何か」という消防団員へのアンケート結果によると、防災訓練、災害活動、救命講習、お祭りやイベントでの予防警戒、地域や学校での防災思想の普及といった活動が挙げられています。これらの活動は地域住民に対するアピールの機会ともなり、地域の住民と良好な関係を保ちながら実施されることが望まれます。防災訓練等の活動は、消防団が地域と一体となって行ってきた意識の表れであり、地域の住民に活動をアピールする機会となります。また、特別区消防団の災害活動強化に向けたロードマップに基づき、計画的に意識の醸成、活動能力の向上、そして定着化を図る方策が有効であると推測されます。従来の防災訓練や地域イベントとの連携を保ちながら、新たな活動も取り入れ、地域の信頼を得る活動を継続して実施していくことが重要です。

続きまして、(2)「地域からより理解と信頼を得る消防団作りの検討」でございます。地域のために活動している内容がより多くの地域住民に伝わる方法を展開していく必要があります。デジタル環境を活用して情報を伝える方法を積極的に推進していく必要があると推測されます。一方で、デジタル環境下でない方々からも信頼を得る手段として、防災訓練、座談会、お祭りやイベント時での予防警戒等も継続して実施していくことが必要であると推測されます。

ここまで4つの検討事項に沿って検討してまいりましたが、ここでまとめさせていただきます。答申書案の6ページ目、まとめをご覧ください。首都直下地震発生時に想定される最大623件もの同時に発生する火災に備え、消防団は単独でも主体的に災害活動ができる力を向上させていく必要があります。そのためにも、消防団員の充足率の向上や人材育成により消防団の組織力を高め、地域住民と力を合わせて災害発生時の被害の軽減を図っていくことが重要です。新宿区消防団運営委員会としては、今後も、社会情勢の変化に柔軟に対応しつつ、魅力ある消防団活動を展開していくことによって住民の負託に応え続ける方策が必要であると提言いたします。

なお、最大623件という被害想定は令和4年5月の首都直下地震による東京の被害想定に基づいており、冬の夕方風速8メートルの場合のシナリオによるものです。

○委員長

ありがとうございました。ただ、今の説明内容につきましてご質問等ございましたらお願いいたします。

○大山委員

アンケートの実施がとても重要で良い取り組みだと思っております。それで、確認したいのは、アンケートの総数についてです。総計が 184 名分で、前回の対象者が 501 名であり、その 36.7%に当たりますが、これは全員にアンケートを配布して回収できたのが 184 名分だったのでしょうか。それとも、最初からこの数でアンケートを行ったのか確認をお願いいたします。

○委員長

はい、それではお願いします。

○永田警防課長

ご質問ありがとうございます。こちらのアンケートの内容ですけれども、分団数かける 10 人 プラスアルファ、団本部用を各消防団に依頼させていただきまして、回答者の階級、年齢、性別は任意とさせていただきました。送付数につきましては、四谷消防団に 35、回答数が 25、牛込消防団に 50、回答数が 44、新宿消防団に 125、回答数が 115、総数合計が 210、回答者数が 184 ということになっております。よろしくをお願いいたします。

○大山委員

ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございました。その他ご質問ございますか。

○藤原委員

藤原です。アンケートの回答状況についてお話ししたいのですが、Q4 の勤続年数についてです。回答者の勤続年数について気になる点があります。具体的には、回答者の勤続年数と全体の人数にどれくらい差があるのかという点です。特に、5 年以上 10 年未満の方が他のカテゴリー、例えば 5 年未満や 10 年以上の人数と比較して少ないと感じました。これは、たまたま回答した方のこの年代の人数が少なかつただけなのか、それとも全体としてこの年代の勤続年数の人数が少ないのか、確認して教えていただけますでしょうか。

○委員長

はい。では、お願いします。

○永田警防課長

はい。ご質問ありがとうございます。先ほどお答えした通りですね、回答者の年齢だとか、階級だとかその勤続年数のところは、各団に任意でやっていただいたところで、全体との割合と一緒かどうかというところがわからないところがあるので、調べてまた後日お答えするような形にしたいと思います。申し訳ありません。よろしくをお願いいたします。

○委員長

はい、どうぞ。

○藤原委員

それで、恐らくそのようなことはないかと思いますが、万が一5年以上10年未満の方が実数として少なくなっている場合には、何か対策を講じる必要があるかもしれないと考えています。この期間の入団者が特別に少なくなった理由があるのか、非常に気になっております。後ほど、その点について教えていただけると幸いです。

○委員長

その他、ご質問等ございませんでしょうか。

○おやまだ委員

はい、おやまだです。アプリの開発を検討という形式でご説明いただいたと思うのですが、他の自治体とかで、こういった連絡のアプリだったりとかそういったものを使っている自治体はあたりするのでしょうか、お伺いしたいです。

○委員長

はい。では、事務局、お願いいたします。

○永田警防課長

質問ありがとうございます。事務局の方で確認しているところがありまして、西多摩地区ですけれども、青梅市消防団、あきる野市消防団、日の出町消防団及び檜原村消防団などで「め組」というようなアプリを使っているということでした。

○おやまだ委員

ありがとうございます。既にやっているところがあるということを確認させていただきました。新宿消防団も多分eラーニングもありますし、震災時に使うシステムなんかもあたりするのかなと思います。結構ログインできなくなっちゃったとか、どこから出るのかわからなくなっちゃったなんていう声も聞いたりするので、もしこういったものが新たに作られるのであれば、全て1つでまとまるようなものにした方が普段使いやすいのかなと思いますので、ぜひ検討の際に入れていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○委員長

ありがとうございます。その他、ご質問等ございませんでしょうか。

○大山委員

失礼いたします。質問だけかと思って読ませていただいたのですが、調査を基にして検討された点が重要であると考えております。いくつか意見を述べさせていただきます。

まず、3ページの(2)「資格取得講座の拡充等の検討」についてです。資格を取得しようとする団員は、自らの質を高めようという積極的な意向があるため、募集人員の制限で希望が叶わない状況には対策が必要かと思います。講座の増設などを検討し、全員が講座を受講できるようにしていただきたいです。

次に、3 ページの (3)「多様な主体との共同による地域密着型の対応」についてです。外国人とのコミュニケーションに不安を感じている消防団員がいることについて、翻訳アプリの活用が有効だと思われます。同時に、視覚障害者や聴覚障害者、ろうあ者の方々とのコミュニケーションの方法や配慮の仕方も学べる場が必要かと思います。さらに、4 ページの (2)「希望するアプリ」について、消防水利がわかる地図や震災時の支援システム、消火栓の使用可否を予測するシステムなどがとても役立つと思いますので、積極的な活用を期待しております。

また、9 ページからの「資格取得に関するアンケート」についてです。特に目を引いたのが、団員用の保育所に関する要求です。これは、子育て中の団員が活動して下さっている証拠であり、非常に嬉しく感じました。保育の形態については、訓練時や講座時に保育所を設置し保育士を配置する、または訪問保育を行うなど、当事者の意見をよく聞いたうえで決定していただければと思います。

最後に、居住地や勤務先での消防団員の在籍状況についてですが、昼間や夜間で最大でも 50%ほどという記述が深刻だと思います。このため、福利厚生や報酬の増加を含め、適切な対策を検討していただきたいです。

以上、よろしく願いいたします。

○委員長

ありがとうございました。その他、ご意見も含めて、何かご発言ございますか。

○山口委員

はい、山口です。いくつか消防少年団のことがアンケートの方では出ておまして、有効だと思われる方策などでも、合同活動であったり、信頼される消防団となるために必要と思われる活動として、消防少年団とのイベントというのが出ていますが、現状どういった形で行われているとかありましたら、ご説明はぜひお願いいたします。

○委員長

はい、じゃあお願いします。

○永田警防課長

新宿消防署では消防団員の方に委嘱して少年団の指導をしていただいていたりと、牛込消防署では消防団員がイコール少年団の指導者であったりと、四谷消防団でもそのようでございます。

○委員長

ありがとうございます。

○山口委員

訓練の際に消防少年団の方がすごく頑張っているのを見た時に、すごくいいなと思ひまして、あの地域でこう子供が頑張っているところは、その子が将来的に消防団に入る可能性ももちろんありますけれども、引っ越されてしまう場合ももちろ

んあって、親がこの活躍を見て、それがまた広まるという可能性もかなりあると思う
んですよ。そういうことで、友達のお子さんであったり、自分の子供の応援に行く
だとか、地域での広がりの可能性がとてもその消防少年団というのはあると思います
ので、ぜひここにも力を入れて進めていただけたらと思います。以上です。

○委員長

はい、ありがとうございました。その他、ご発言ございませんでしょうか。それで
は、皆様、ありがとうございました。本日予定しておりました審議は終了となりま
す。円滑な議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。後の進
行を事務局へお返しいたします。

6. その他

○事務局

委員長、ありがとうございました。それでは、次第6その他今後の予定についてになり
ます。本日、皆様にご審議いただいた内容を踏まえ、答申案を追記、修正いたしま
して、次回の委員会でご審議いただきたいと思っております。委員会はあと1回開催を
予定しており、次回は令和7年1月を予定しております。最終的には、期日である令和
7年3月31日までに都知事に答申をいたします。また、本日の委員会の議事録が完成
し次第、皆様に送付させていただきますので、お手数ですが、内容の確認をお願いい
たします。修正等がなければ、ホームページに掲載させていただきますので、よろし
くお願いいたします。

7. 閉 会

○事務局

以上をもちまして令和6年度第1回新宿区消防団運営委員会を閉会いたします。
本日はありがとうございました。